



坐薬のお話

皆さんは「坐薬」というと、どうい
う薬のイメージを持っておられます
か？ 恐らく、「痔の薬」や「解熱剤」
という方が多いのではないでしょう
か。

確かに、薬局などで買える坐薬は
「痔の薬」が多いのですが、病院で処
方してもらう坐薬には、「便秘薬」「吐
き気止め」「てんかん発作を抑える
薬」「ぜんそくの薬」など、さまざま
な種類の薬があります。

坐薬の利点としては、①飲み薬が
飲めないときにも使える ②胃に負
担をかけずに使える ③早く吸収さ
れるので効き目が早く現れる―など
を挙げることができます。一方、欠
点はというと、①飲み薬のように手
軽に使いにくい ②外出中は使いに
くい―などがあります。

○いつどう使えばいいの？

一般的な坐薬は、円すいと円柱を
くつつけたような形をしています。
これは、挿入しやすく、かつ飛び出
しにくいからです。入れるときは、
とがった方を先にして挿入します。
挿入しにくい場合は、先の部分を指
で少し暖めて軟らかくすると、入れ
やすくなります。

また、坐薬は腸を刺激して便秘
を催すことがあります。「解熱剤」
や「吐き気止め」など、症状がつら
い場合は仕方がありませんが、な
るべく排便後に入れて、30分ぐら
いはトイレを我慢するようにして
ください。

○坐薬が出てきてしまったら？

坐薬を挿入後、すぐに原形のまま
出てきたら、もう一度新しい坐薬を
入れても構いません。

一方、挿入後しばらくたって原形
をとどめない形で出てきた場合は、

新たに坐薬は入れない方がいいで
しょう。ただし、坐薬の種類によっ
ては対応が違う場合がありますの
で、坐薬を処方された病院や薬局
で、念のために対応を尋ねておくよ
うにしましょう。

○保管はどうすればいいの？

坐薬は体温で溶けるように作ら
れているため、冷蔵庫で保管してお
きます。この際、冷蔵庫を開け閉め
して庫内の温度が上がりがり、坐薬が
少し軟らかくなっても形が崩れな
いように、とがった方を下にして
置くようにしてください。

また、薬を持って帰るときも注
意が必要です。特に、夏の車中に放
置すると溶けてしまいますので、
車を離れる必要がある場合は、坐
薬を持って出るようにしてください
い。そして、持ち運ぶ場合も、なる
べくとがった方を下にするように
してください。